

2 目標達成計画

事業所名：グループホーム菜の花

作成日：平成27年1月6日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>問題点：「運営理念・会社方針」等を掲げ毎朝・復唱して介護を実践しているが、各人の「能力・資質」が異なる為、全職員が自主的に「実践」の方向に繋げる事は、非常に困難である。</p> <p>課題：各人の「能力・資質」が異なる職員を現実に「運営理念・会社方針等」を認識して全員が同等に「実践」する事は、非常に「期間」を要する。</p> <p>この資質は2通りと「事業所」定義付している。</p> <p>No1「マニュアルが無いと実践が出来無い人」</p> <p>No2「創意工夫で自分の意思が反映=実践する事で利用者の方へ感動を与える事が出来る人」</p> <p>事業所が最終目標達成する資質等は「No2」の方である。</p>	<p>全職員が「運営理念・会社方針等に基づく、介護を実践している施設」が目標で以下次のとおり。</p> <p>※ 運営理念「私達はこの地域の方々を含め入居者様・ご家族・職員が、知恵・優しさ・技と力を出し合い入居者様を中心に、皆で睦みあい、親しみを深め、尊重しあう楽しく穏やかな、我が家づくりを目指す事。</p> <p>会社方針「真実か」「みんなに公平か」「みんなの為に成るか」「好意と友情を深めているか」</p> <p>① 会社方針が「運営理念を支えている事を自覚しよう」</p> <p>② 会社方針は「業務を実施する判断基準である事を認識しよう」</p> <p>意思疎通が困難で「治癒不可能病気」の為、残された「日々の時間を和んで頂く・看取りを含む」為に創意工夫した介護が目標。</p>	<p>1 毎朝「運営理念・会社方針」等を全職員が復唱している。この、復唱は開設の平成16年5月15日以来現在も実践中</p> <p>2 今年度は、上記項目の「みんなに公平か」を全職員が「目標設定」して個々に「達成度結果表」を自己申告し、上司「補佐=各ユニット責任者」へ提出する。</p> <p>その上司が、職員個々の目標に沿った介護を「実践した可否か」を評価して、「取締役施設長(管理者)」が再評価する事で「客観性」が生じる。</p> <p>3 更に、別添「達成度結果表」を各職員からの提出期間を定め「自己評価=職員個々」・「補佐=ユニット責任者」が評価・「取締役施設長=管理者」が再評価してフィードバック=結果を原因に反映させる。</p> <p>これを、職員は「自己を見詰め直す」きっかけと成り、目標達成の向上を目指し日々実践している。</p> <p>具体的な取り組み内容を添付=目標設定「会社方針・理念及び自己研修制度」に伴う達成度結果表・抜粋:2職員分×4枚。</p>	<p>期間は3ヶ月の期間毎区切って実施している。職員個々に目標達成度合いが異なる為、レベルを同程度になる迄、実施している。</p> <p>これが、出来無い状況であれば、更に、3ヶ月の期間を設ける。</p> <p>目標達成が多項目な為、今後とも「運営理念・会社方針」に沿う実践には相当の期間を要するから「中弛み」の危機感をもって取り組んでいる。</p> <p>よって期間は3ヶ月単位の繰り返しを継続したい。</p>

2	35	<p>※現状における問題点、課題</p> <p>○災害対策</p> <p>問題点：地域の方々を当事業所が実施する火災・避難誘導訓練時へ参加を依頼するには困難である。</p> <p>地理的環境は高潮・土石流等発生の避難誘導は、地形的に皆無で、火災発生に伴う避難誘導を重点においている。</p> <p>この地域住民の70%は後期高齢者で、火災発生時の避難訓練は体力的に無理と考える。</p> <p>更に、側溝と塀を挟んで住宅はあるが、その住民は後期高齢者宅でもある。</p> <p>参加して頂いても良いが、「老々介護」では無いが、「老々避難訓練」となり、2次災害に成る可能性が大であり依頼していない。</p> <p>課題：若年層の方々は、2~3年間程度の借家住まい、地域住民に溶け込んで居無い様である。</p> <p>塵埃収集でも単独で業者へ委託、近隣の住民との「トラブル発生」の要因を作りたくない様に感じ取れる。</p>	<p>※目標</p> <p>地域住民で2世帯家族の方々へ依頼する事は可能だが、これも、当施設からの距離が遠く「いざ、鎌倉」の場合で、依頼した時刻から到着時間が5分~10分以内であればお願いする事が出来るが、現実問題としては不可能である。</p> <p>従って、火災発生時から地域住民へ避難誘導等の依頼をした場合、到着時間は5分程度が目標で、かつ、体力的に、この行動に耐えうる住民の方々を視野に入れている。</p> <p>事業所の隣なり=「近隣」に、住宅が建て込んで避難訓練の対象に即した人達が、生活の拠点として地域に溶け込む事が出来れば可能と考え「目標」とする。</p> <p>災害等による「死者等」を絶対、当事業所から出さない事が目標。</p>	<p>※目標達成に向けた具体的な取り組み内容</p> <p>地域の方々を当事業所が実施する訓練時へ参加して頂く為には、左記の問題点で苦慮しているが、今、以上の親近感を必要とする為、更に地域交流が必要である。</p> <p>此の問題点=「必要性が叫ばれた背景」は、長崎・北海道等の火災による死亡した事も、問題と理解している。</p> <p>この火災原因の共通点は「夜勤者1名が勤務した結果」で「火災発生の要因除去・初期消火・通報・避難誘導等」の現実的な認識が事業者も従事者にも、危機感が無かった事と推測。</p> <p>当事業所は、当初から「職員・利用者」の喫煙者は徹底的に排除 --- 夜勤者は、各ユニット1名で計2名を配置している。</p> <p>従って、平屋で平面の「2ユニット」であるが、各ユニット共に見通しが良く「利用者・勤務者」の動作が手に取る様に判断される職場環境なので初期消火の対応は迅速に出来る。</p> <p>非常事態時の避難誘導口は2カ所増設して現在は「東側=2・西側=2・北側=1・南側=3」合計8カ所備えている。</p> <p>緊急避難誘導訓練は「年間2回」=夜間を想定した訓練を実施していたが「緊急避難誘導訓練」の結果は「時間短縮を主眼」</p> <p>今回「外部評価のご指導に基づき」地域の協力者も交えた緊急避難誘導訓練を「年間1回」増やして「年間3回」する。</p>	<p>※目標達成に要する期間</p> <p>地域の方々を火災・避難誘導訓練時に参加依頼の件、時期は、速いに越した事はない。</p> <p>次の運営推進会議等で「日頃から、実践できる地域の方々」の情報を得て、直接お願いに伺います。</p>
---	----	---	---	--	--

3	49	※現状における問題点、課題 ○日常的な外出支援 問題点：「無職で体力」のある高齢者が社会へ参画出来る様に、行政等からの支援が必要。 この事で、「同」高齢者の意識が変り「介護福祉サービス」の「ボランティア育成」へ繋がれば、当事業所を含め、この「知識」のある人を歓迎する。 現実に、趣味同好会の方々は「発表の場を介護施設等」に求めている実態がある。 しかし、他府県では「介護福祉サービスのボランティア」に参加する事で、行政から「特典」を与えていた。但し、認知症介護サービスに従事する場合「利用者」の方々は「日頃から従事している職員」である事を理解しているので、その対応が「異なる」と非常に難しいと思う。 その対応の仕方によっては、不穏「精神的ストレス」を与える事になる。 認知症=「生活介護・身体介護・精神介護」が要求される事を自覚して頂きたい。	※目標 現在は、「円満退職者」の方々が「ボランティア」として、当事業所で勤務して頂いている。 此の方々は「生活介護・身体介護・精神介護」に従事して頂いた方で、自分の時間を優先し、残りの時間に活躍して頂いく事を目標にしている。 この様な、「円満退職者」の方々が、更に、増える事が地域社会等への貢献にも繋がる。 それには、今迄以上に運営理念・会社方針等を現在の職員へ浸透、かつ、実践している職場創りを目指す事も一つの目標でもある。 と併せて、定年制度が無いので、正規・パート等の勤務が家庭の事情・体力的等に無理となった方々を本人が希望すれば、「円満退職者」と位置づけ「ボランティア」で参加して頂く事もある。 ☆「ボランティアの方々」と「職員」及び「事業者」との「意思の疎通を図る」事も大事と考える。 それには「職員忘年会・利用者等との忘年会等の食事会」及び「全体会議等」も参加している。 方針・理念の共有と実践=「利用者の方々は、看取りを含め、残された日々を、和んだ時間で過ごす事」が目標。	※目標達成に向けた具体的な取り組み内容 「円満退職者」2名が左記のとおり「ボランティア」として、勤務活躍している。	※目標達成に要する期間 事業所が存在する限り継続して行きたい。
---	----	--	---	--	--